シモマッチの校長随想

～教育は過去からの贈り物、そして未来へのメッセージ～

下町壽男　盛岡中央高校附属中学校副校長

第34回

「切り絵」と学校のアフォーダンス

□ 忘れられないAさん

以前、ある高校に校長として勤務していたとき、教育支援員のAさんという方に来ていただいておりました。車椅子通学をしている生徒への支援のためです。ただ、ずっとその生徒の傍にいる必要はなかったので、Aさんは、空き時間にせっせと切り絵を作って、教育相談室や職員休憩室、廊下や生徒昇降口など、学校中に飾りつけをしてくださいました。自分がやれることは何かを考え、それを人知れず実行してくれていたのです。ささやかな行動ですが、その心遣いに感動しました。

私たち高校の教員は、学力を向上させる、進路目標をかなえる、部活動で成果をあげる、などのミッションを持ち、その実現のため、さまざまな取組を行っています。その取組は、効果の最大化、リスクの最小化を目指しながら、紆余曲折を経て、太く強力なものになっていきます。しかし、それがさらに加速されていくと、しばしば、「結果を出す」という大義名分によって、過剰になり、影の部分も生み出します。

「学力向上」にしても「部活で成果をあげる」ことも正義であり正論です。しかし、往々にして、その「正義」の名の下に、効率性、画一性、一方向性によって生徒を追い込むことが許されていきます。しかも、そのような指導が「やむを得ず」「一時的に」行われるものではなく、それを乗り越えることこそが、能力を開花することだと目的化され、指導の正当性を担保しようという、ある種の開き直り的現象にもつながっていく面も否めません。

そうやって、人はその旗の下に集まり、コンテンツはより強大化し、それによって、立ち向かえる強者、顔色をうかがって順応する者、ドロップアウトする弱者の三者に振り分けられているのが、いわゆる進学校における古くて新しい問題ではないかと思います。

さて、そんな中、学校中を切り絵できれいに飾りつけをするということには、そのような大義名分はありません。「そんなことをやっても部活の成果があがるのか」

「学力向上に役立つのか」と心の中で思う人もいるかもしれません。だから、そんなことをやる人は、世の中にはめったにいないのですね。

確かに、○○のためにやる、○○に役立つためにやる、あるいは、上司に命令されたからやる、自分の役割として与えられているからやる、というのは一つ行動原理であり、一見、筋の通った「正論」のようにも思えます。

でも、私はそこに、どうしようもないミもフタもなさも感じます。学校は成果をあげる場である、という経済原則の視点で語られるたびに、私は、教育の成果や価値とは何なのかと、どうしても立ち止まり、考え込んでしまうのです。

もちろん、進学実績や偏差値の向上といった、数値で表される価値を高めていくことを否定するものではありません。それは大切です。しかし、同時に、やりたいからやる、楽しいからやる、といった思いから出発する教師や生徒の自発的活動にも価値を見いだしたいのです。やらなくてもいいかもしれない仕事。だからこそやる。教育の価値はそこにあるのではないか。むしろそのような行動にこそ、私はクリエイティビティや主体性を感じるのです。

しかも、そのことは、進学実績や偏差値を高めることと二律背反ではないと私は思うのです。学校が、価値を生みだす装置として研ぎ澄まされ、機能していくことによって、できるだけムダなことはしない、させない、という学校文化が生まれるのではないか、そして生徒や教師の創造性や芸術性、主体性が損なわれるのではないか、私はそのようなことを日々感じていたので、Aさんの切り絵装飾の活動が、新鮮に感じたのかもしれません。

「ために」ではない自発的な活動

もちろん、Aさんの活動は「学力を伸ばす」「部活で成果をあげる」ことと無関係ではありません。その理由を説明するのは、野暮の極みかもしれませんが、あえて述べてみたいと思います。それは、学校とは、知識や技能を身につけるより前に、子どもたちの「情緒」を育む場であるからです。そして、成果をあげる前に、他者への優しさを身につける場所だからでもあります。これが私の考えです。

こんなことをいうと、また「センチメンタルな自己愛」「経済なき倫理はただの寝言」などとささやかれるかもしれませんね。でも私は、そんなレベルのことを言っているのではありません。情緒が育つことによって、気づきの感度が高まり、それは本質をつかむ力になるからなのです。そして、自ら学ぶことへの原動力にもつながるのです。そして、優しさを身につけた人間は、相手を高めることで自分の能力が磨かれることを知っています。そして、世の中の理不尽に立ち向かう勇気や、自分に打ち勝つ力にもなるのです。

私は、Aさんの、ささやかであるけれど、自発的な活動は、学校を「学びを行う場」から「さらに情緒を育て、心身の健全な成長をアフォードする空間」に成長させてくれたと思っています。